

慶応三年四月廿日より慶応三年四月廿二日まで

P8310677right

御書取廻し来る、栄助へ廻し遣す、近衛殿御息女、明朝六時御供持石山寺参詣の趣に付ては英公使行逢の懸念不少、相談として栄助来る、森山宿へ一書為申遣、旅亭にて酒肴の設あり、明日謝銀遣す積り

廿一日辰 濃陰

近衛殿御息女、英公使の行逢甚心配に付、栄助を伴い石山寺迄、早朝に趨く、御息女御参(石山寺)堂中、英公使一行瀬田通り船にて着岸す即時上陸場に至り、先ず茶店へ引入談判して御下参

済を為待受、双方への引合混雑を極(め)得共、先無停相済、夫より石山寺へ公使等が同行せし処、山門を鎖し可引合□老人も不居合入るを不得、公使一行も□触

見切り宇治の方へ道を取るを幸にして別を告げ第一時過帰舎、(□山より帰り)連十郎来り居

P8310677left

午餐を勧む、本日の事件、京都叟芸両州へ御用状内状差立る、第三時十五分、当宿  
出立夕第七時五分前伏見着

廿二日巳 曇雨数過夕晴

夜第十二時過乗船、朝第七時過八軒屋着岸、着阪、斉藤六へ小樽代料も□持酒の紹介を頼遣す、即時差越(呉、詰所へ)出勤、パークス(※)着を待受、当鎮台兩人監察松野、但給一同同人方

着賀に行く、第一時半、猶但州供の同人引合有し燈明臺(台)、同磯方御佳、川蒸気船御買入等の義也、明早朝(第四時)立払の旨也、朝八時前故、祝砲残別、其外都て、礼式の手数断り□趣申聞る、是は各国通例のこと也、右英帰船便に托し御用状宅状等出す、余も明日パークス立払後出立の積り決す、但馬守より残別の役あり、是より留(別)の杯を勧て□酌、横山

\*1:パークスは英国公使(日本に大きな影響を与えた)

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。